

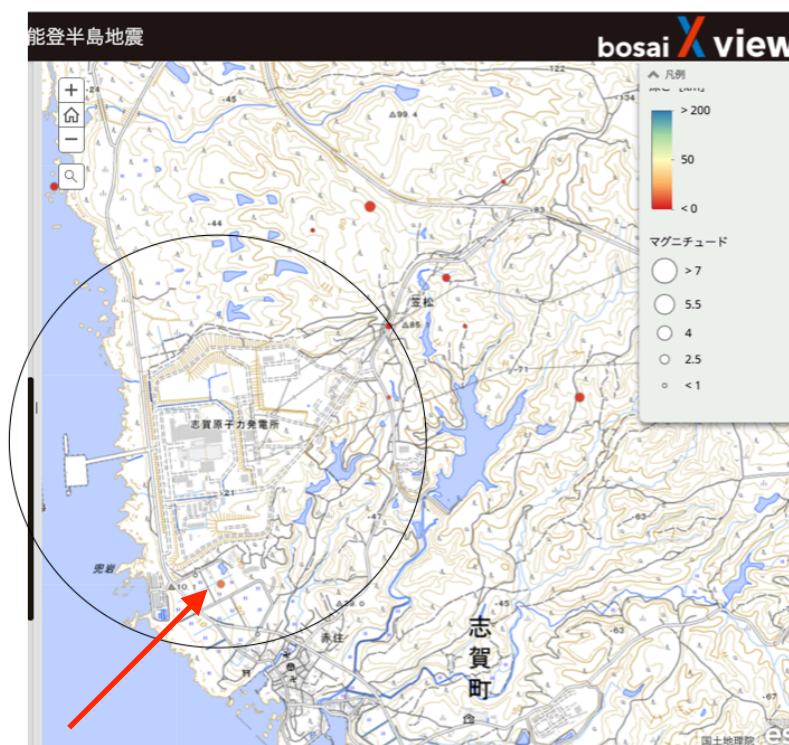
志賀原発に最も近い震源地が消えていたのはなぜか？

「防災クロスビュー：令和6年能登半島地震」の「震源分布」*を見、志賀原発周辺の震源地を拡大しスクリーンショットを取っていました。1月1日の大地震から5日後6日の震源地分布で原発に最も近い震源地（以下「注目震源地」）に着目していました。ところが、1月15日にその注目震源地が消えており驚きました。13日の図では消えており6日から1週間以内に消えたようです。以下、その証拠となる図等を示し残すようにします。

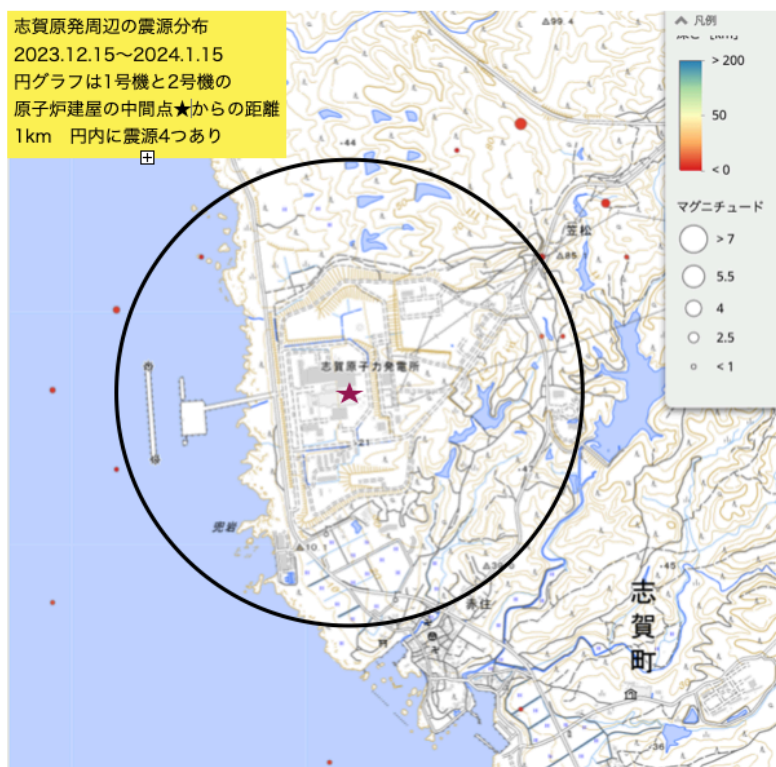
*国立研究開発法人防災科学技術研究所（文科省所管） 防災クロスレビューは以下です。

<https://xview.bosai.go.jp/view/index.html?appid=41a77b3dcf3846029206b86107877780>

震源分布図 2023.12.5～2024.1.5 志賀原発周辺



円は1号機と2号機の原子炉建屋の中間点からの距離半径1000mラインを示す



2024.1.6 作成した図

注目震源地は赤い矢印の先の 赤い点です。円は1, 2号機原子炉建屋の間から約1000mのラインです。

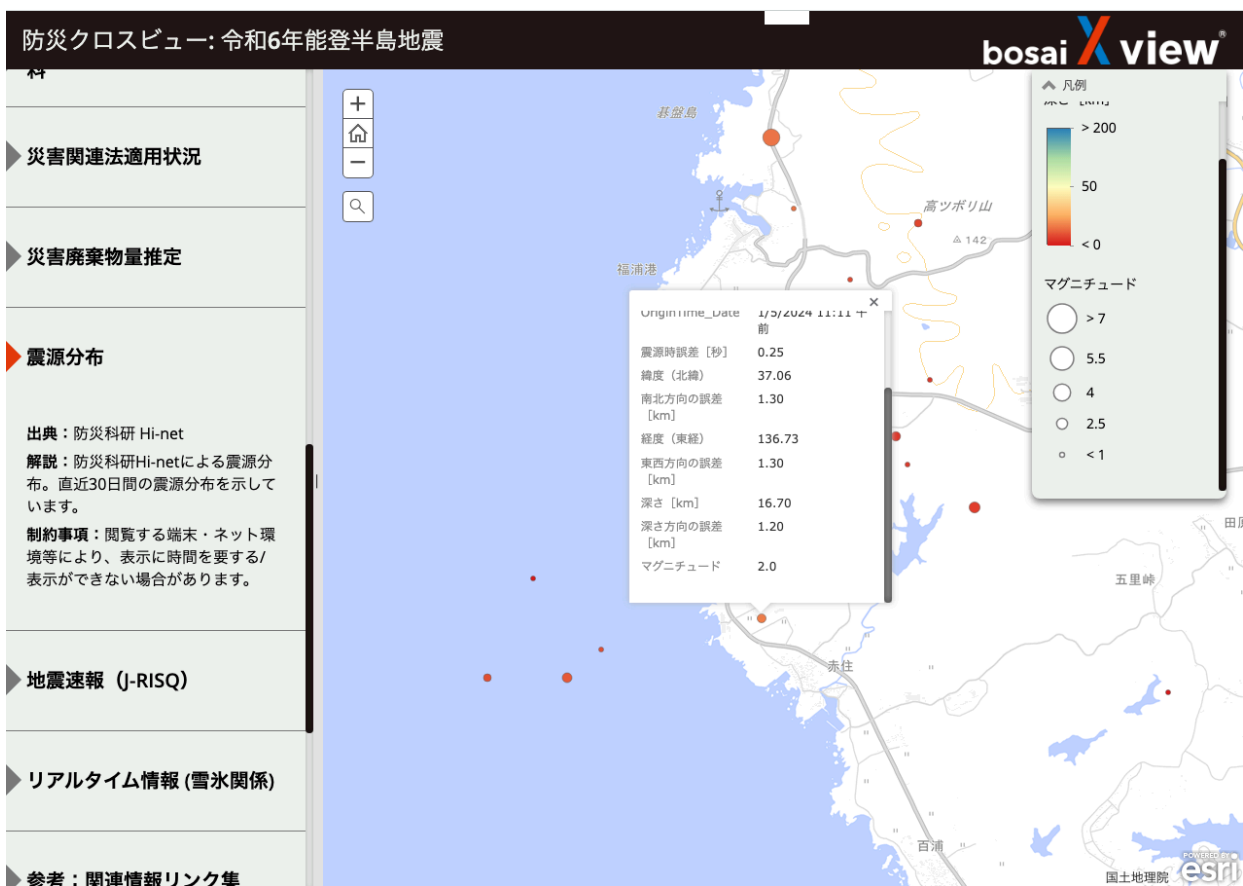
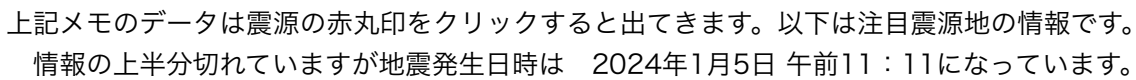
この注目震源地のデータは次ページの下図に出ています。1月5日午前11時11分に起きた地震で、原発中心から約630m敷地境界から約180mほどの地点です。マグニチュード2.0 深さ 16.7km です。

2024.1.15 作成した図

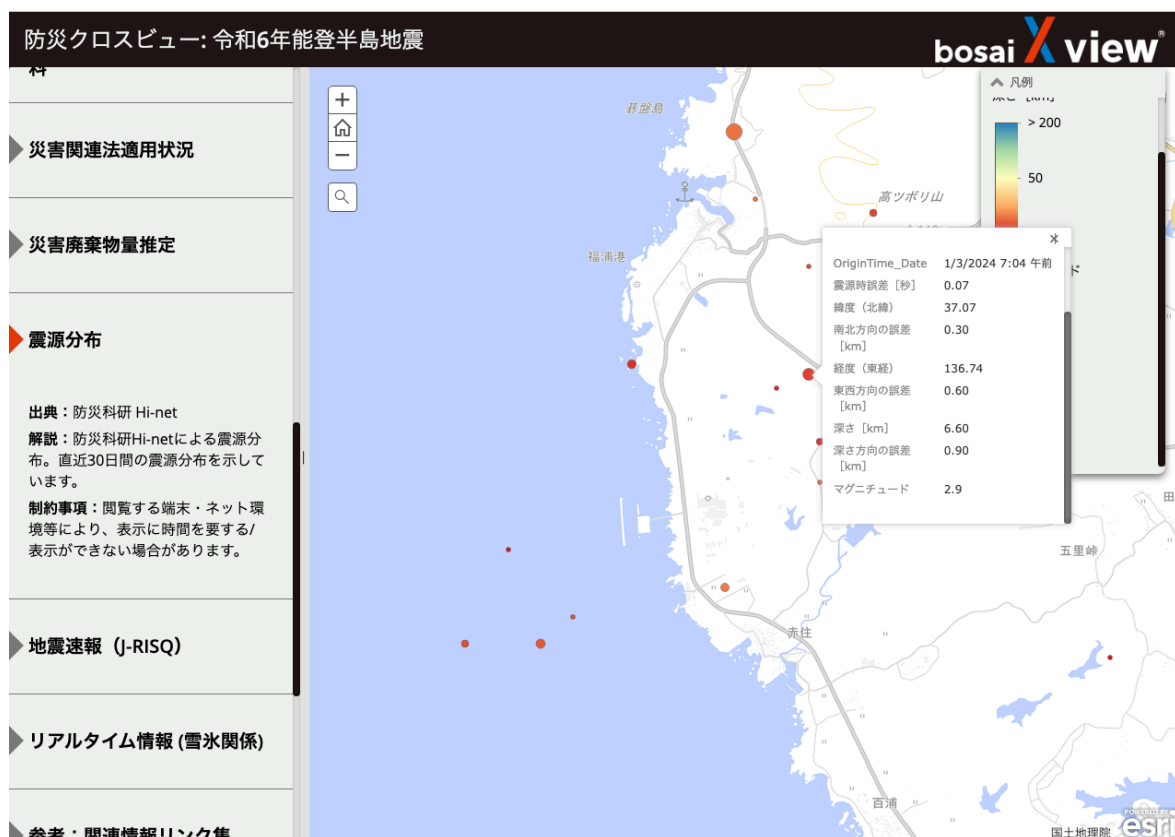
上図の原発に最も近い注目震源地は1月15日のクロスレビューの図から消えていました。1月5日から15日までの間に発生した地震の震源地が増えるのはわかりますが、消えるのはなぜでしょうか。

以下に上記データの図や1月5日のメモを示します。この時点では確かに注目震源地はあったのです。

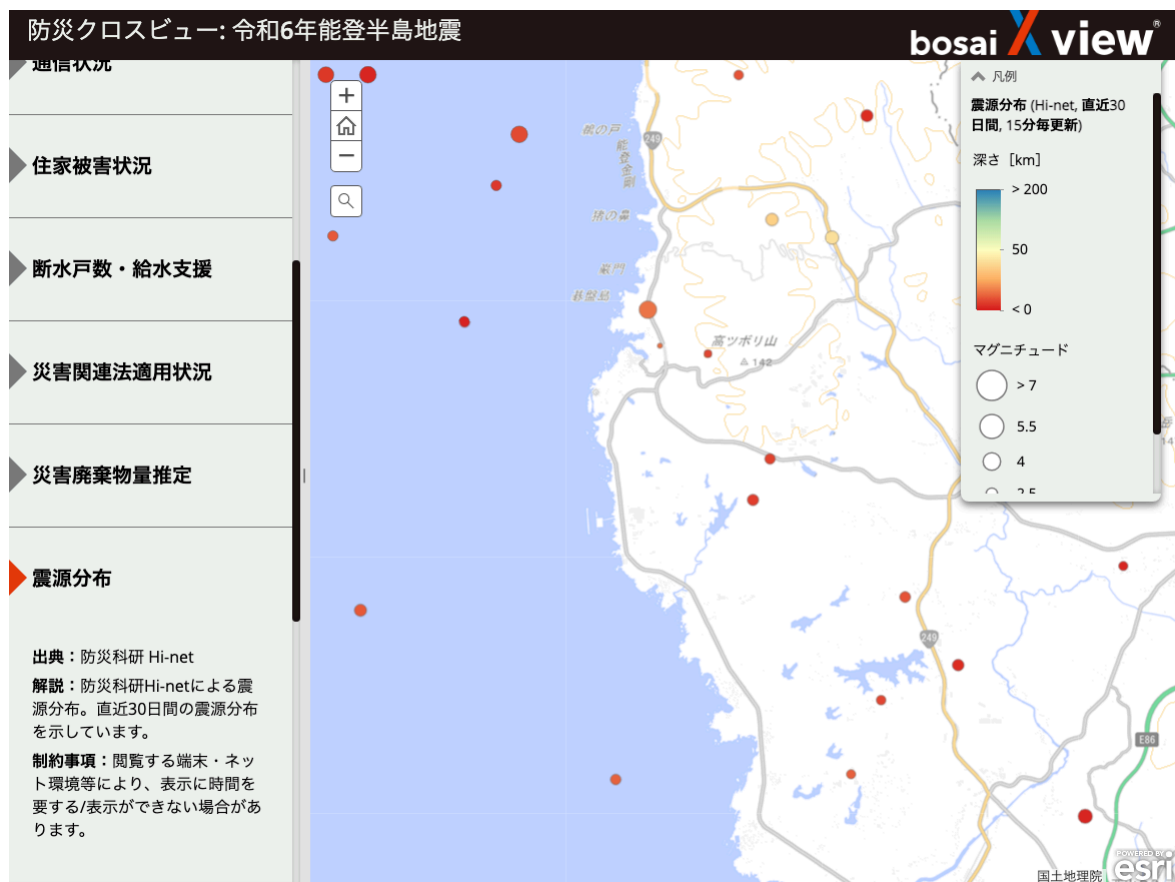
防災クロスビュー: 令和6年能登半島地震



1月6日調べた際のその他の震源データの例です。1月3日午前7：04に深さ6.4kmで発生した地震です。原発は海に飛び出た一文字防波堤の内陸にあります。注目震源地は出ています。

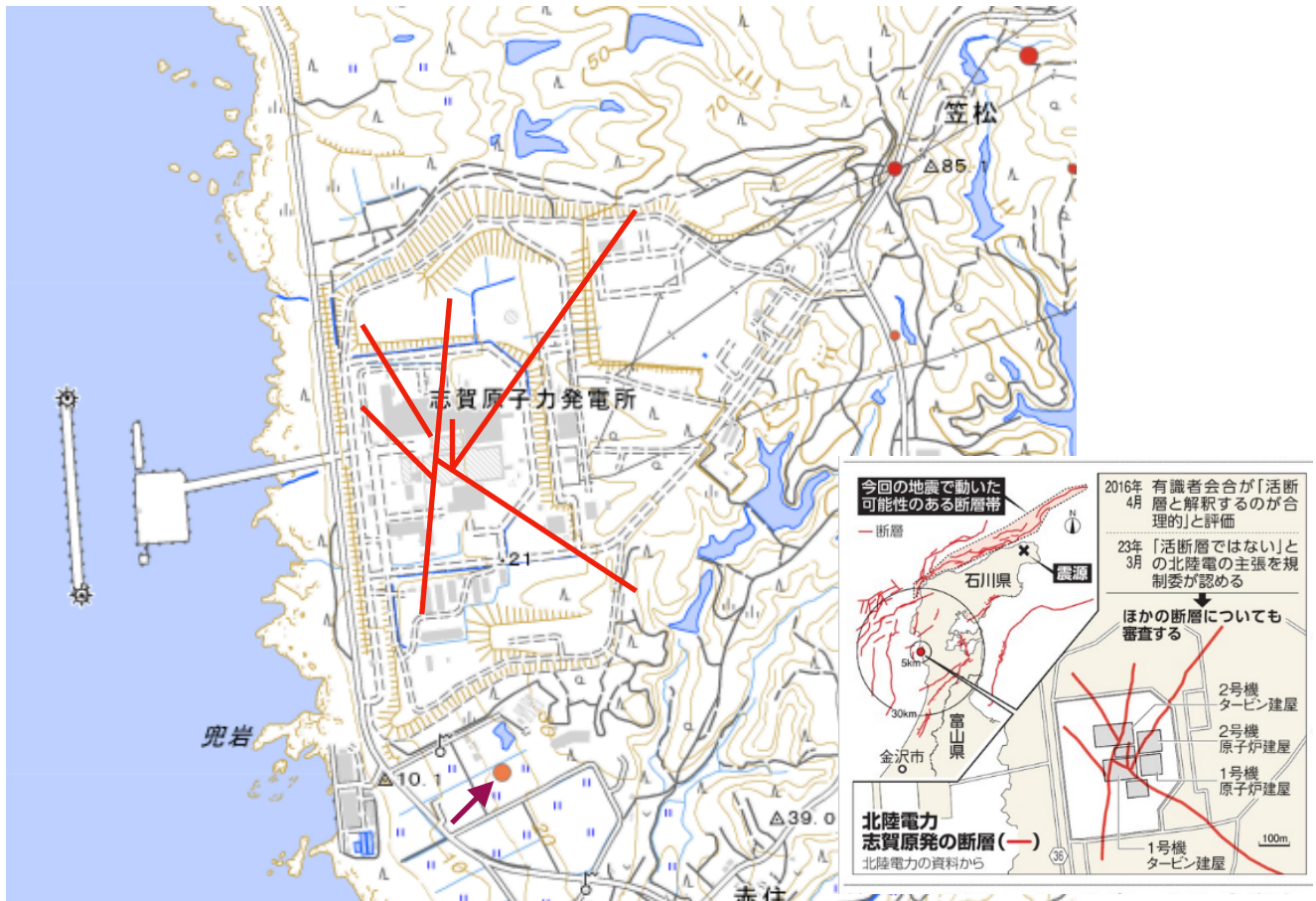


下図は1月3日 21：20のスクリーンショットです。この時点では当然のことながら注目震源地の地震はまだ起こっておらず震源地は出ていません。（スクリーンショットの表示：2024-01-03 21.20.42）



◎ 1月5日午前11時11分に発生した地震震源地の記録は翌日の6日22：01にはまだ消えていませんでした。1月13日16：14には消えていました。この間に消されたようです。

考察 1月6日のクロスビューの志賀原発周辺を拡大した図に朝日新聞掲載断層（右下図）を書き込んでみました。



志賀原発敷地を南北に走る審査対象のS-2・S-6断層の延長方向に近接し注目震源地があることがわかりました。

まとめ

- 志賀原発敷地の南約180mにある地点で1月5日午前11時11分地震があった。深さ16.7km、マグニチュード2.0でした。
- この震源地は最も原発敷地に近接しており、審査対象断層の延長近く地震であることがわかります。これが一致すると活断層とみなされることになるのではないのでしょうか。
- 原発敷地内活断層との因果関係について再審査される方向性が出たのでこの震源地の存在は原発継続にとり不都合であり、文科省を通し、防災科学技術研究所に消去をするように働きかけがあり実施された。
- 他の不都合な震源地データも消しているのではないかな。

この震源分布図は1ヶ月間に起こった地震の震源図ですので、来月になると消えてしまいます
2月5日ごろになると能登半島地震の震源地の大部分は表示されなくなりますので、事実をメモ的ですが公開し保存しておくことにしました。